

ブラインド等のひもに関するアンケート調査結果

本アンケート調査により、下記のことがわかった。

- 子供のいる家庭の約3割が「ブラインド類・スクリーン類」を所有している。
- ひも部分のあるブラインド類・スクリーン類を所有する、小さい子供のいる家庭では、半数以上が、4年以上使用している。
- 購入先は、「ハウスメーカー・内装業者等」、「実店舗」がそれぞれ4割を占め、「インターネット・通信販売」が約1割となっている。また、4割の消費者が自身で取り付けている。
- 警告マークによる周知については、「覚えていない」または「表示はなかった」が全体の約8割、安全器具については「付属していなかった」または「覚えていない」が全体の6割弱を占め、コードクリップ等の安全器具についてはその約4割が毎回使用していない。
- 約15%で「危害」「危険」「ヒヤリ・ハット」の経験があった。
- 「3才以下の事故が多い」「ひもで遊んでいて首を引っかける事故が多い」などの傾向がある。
- 「ソファやいすの上に登っていた状態で事故にあった」「安全器具が機能して助かった」「事故の際は安全器具を使用しなかった」などの事例が多くある。
- 「事故が起きるまで危険を感じていなかった」という回答が多く、また、「(原因は)保護者や子供の不注意だった」と考える人、苦情を申し出ない人が多い。

1. 事前アンケート

「ひも部分のあるブラインド類・スクリーン類」の所有者を調査対象とするために、ブラインド類・スクリーン類の所有状況を調査する「事前アンケート」を行った。

(1) 事前アンケート調査の概要

ア 調査地域と調査対象者

東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県に在住の、子供のいる20-40代の世帯¹ 36,569件

イ 調査方法

WEBを利用したインターネットアンケート

ウ 調査実施期間

平成25年10月24日(木)から10月30日(水)まで

¹ モニター登録情報による。

(2) 調査結果

ア ブラインド、カーテン等の所有状況

タイプ別所有率は下記のとおりである。ブラインド類・スクリーン類のいずれかを所有するのは、回答者全体の 33.0%、「ひも部分のあるブラインド類・スクリーン類²」のいずれかを所有するのは回答者全体の 29.2%³であった。「その他」については「すだれ」との記述があった。

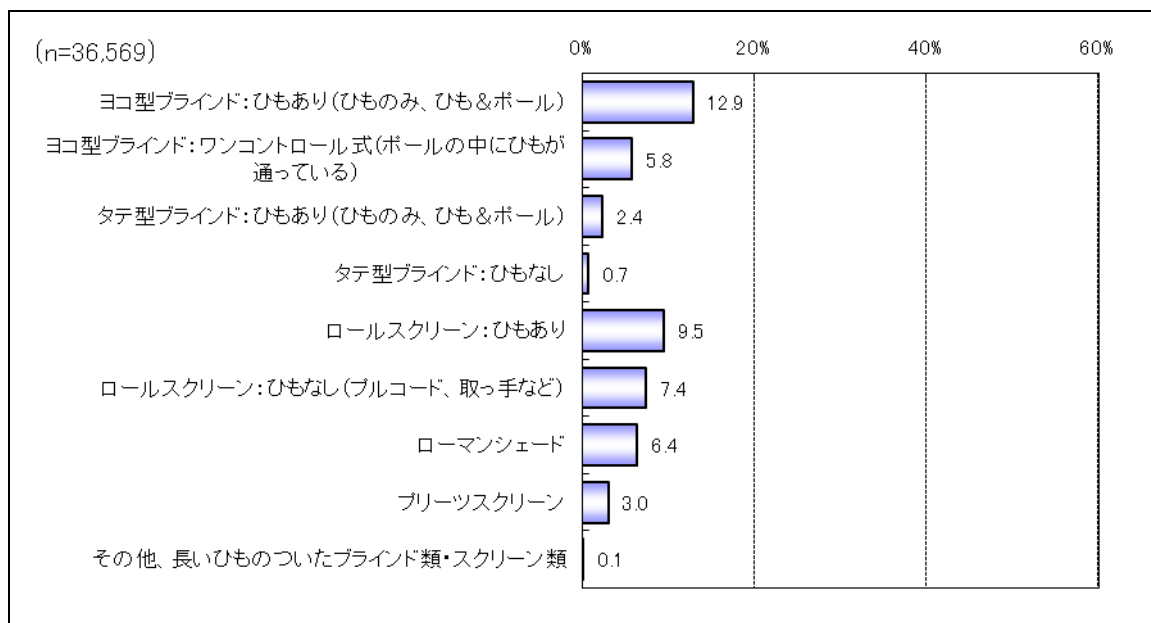


図 1 ブラインド等の所有状況(複数回答)

また、カーテンの所有状況は以下のとおりで、回答者全体の 76.2%⁴がカーテンを所有している。

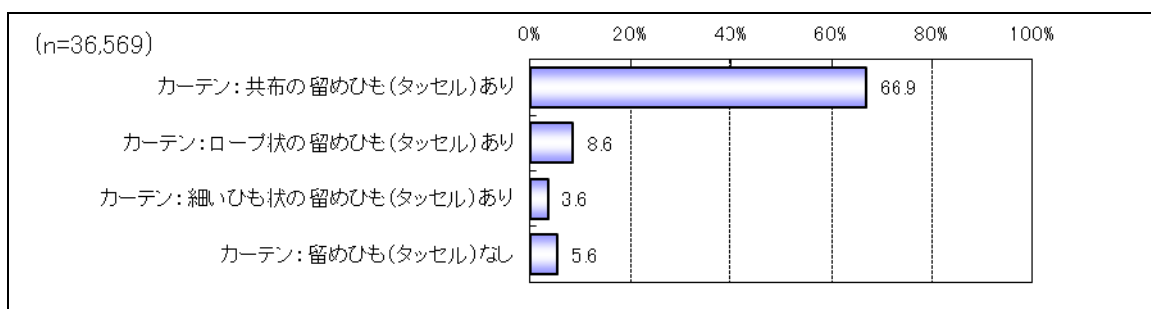


図 2 カーテンの所有状況(複数回答)

ブラインド類・スクリーン類・カーテンのいずれも所有していないのは、回答者全体の 15.9%であった。

² 「タテ型ブラインド:ひもなし」「ロールスクリーン:ひもなし」を除く6タイプのブラインド類をさす。

³ 複数の異なるブラインド等を所有するケースがあることから、合計より小さい数値となっている。

⁴ 複数の異なる留めひもタイプのカーテンを所有するケースがあることから、合計より小さい数値となっている。

2. ブラインド等のひもに関するアンケート

「事前アンケート」で、「ひも部分のあるブラインド類・スクリーン類」を所有していると回答した方を対象に調査を行った。

(1) 調査の概要

ア 調査地域と調査対象者

ひものあるブラインド類・スクリーン類を所有している、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県に在住で、生後3ヶ月から6歳までの子供のいる20-40代の世帯 1,030件

イ 調査方法

WEBを利用したインターネットアンケート

ウ 調査実施期間

平成25年10月31日(木)から11月1日(金)まで

(2) 調査結果

ア 使用しているブラインド類・スクリーン類について

(ア) 使用期間

使用しているブラインド類・スクリーン類のうち、最も長期間使用しているものの使用期間は、「2年～3年未満」12.1%が最も多く、「3年～4年未満」12.0%が続く。「8年以上」⁵の回答も約2割あり、半数以上が4年以上使用していることがわかる⁶。

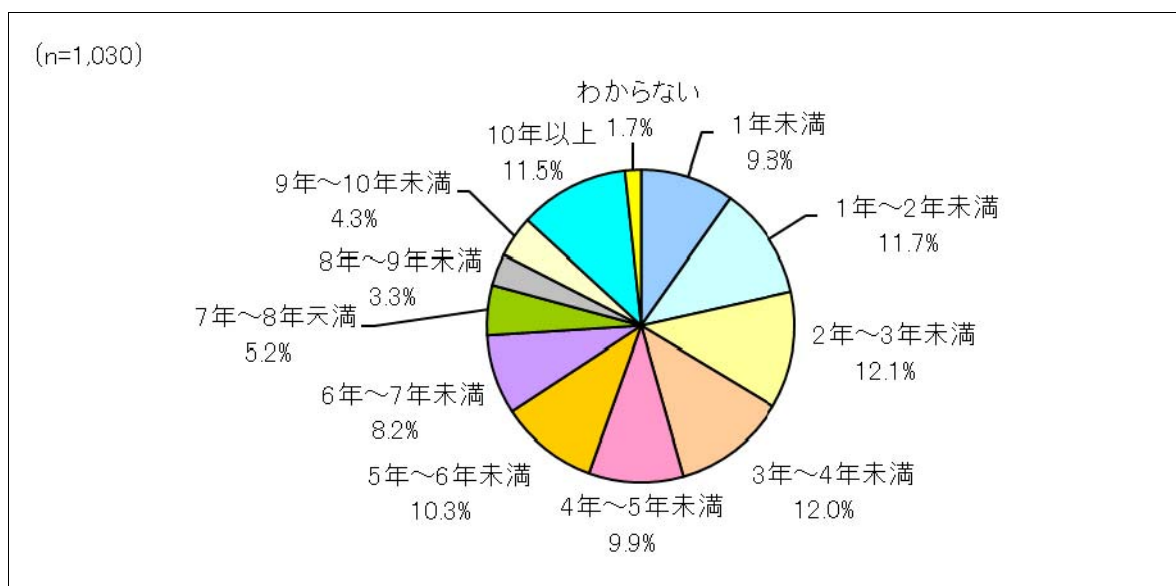


図 3 ブラインド類・スクリーン類の使用期間

⁵ 日本ブラインド工業会各社が安全器具を標準装備したのは、約8年前の平成17年(2005年)である。

⁶ 日本ブラインド工業会のヒアリングによれば、買い替え需要の周期は10年弱とみられている。

(イ) 主な購入先

使用しているブラインド類・スクリーン類の主な購入先は、「ハウスメーカー、リフォーム業者、内装業者」と「実店舗」がいずれも約4割であり、「インターネット・通信販売」は約1割であった。また、「実店舗」については、ホームセンターや家具量販店の記述が多かった。

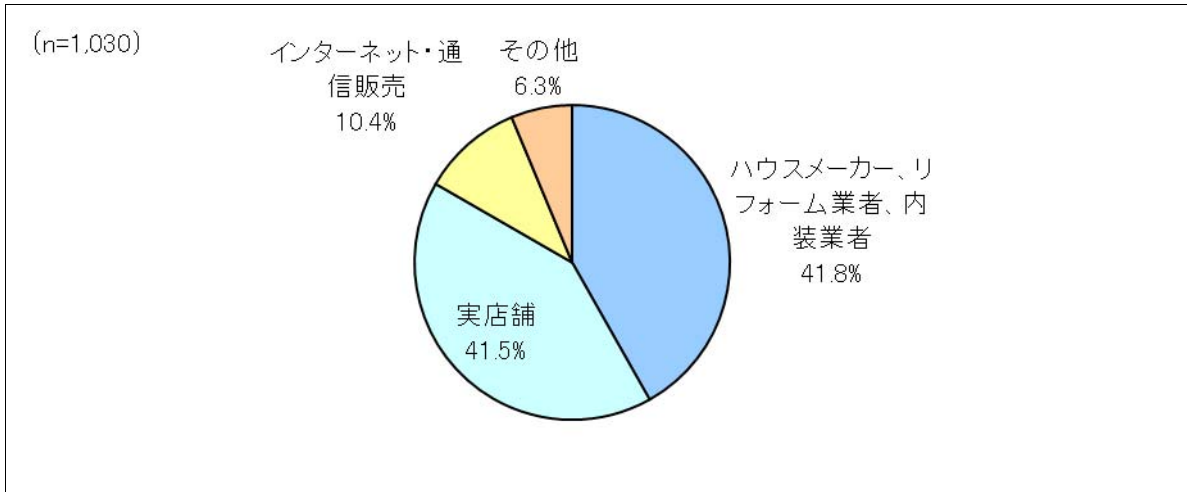


図 4 ブラインド類・スクリーン類の主な購入先

(ウ) 主な取付業者

使用しているブラインド類・スクリーン類の主な取付業者は、「ハウスメーカー、リフォーム業者、内装業者」が41.7%と最も多いが、「自分または家族」との回答も40.6%にのぼる。

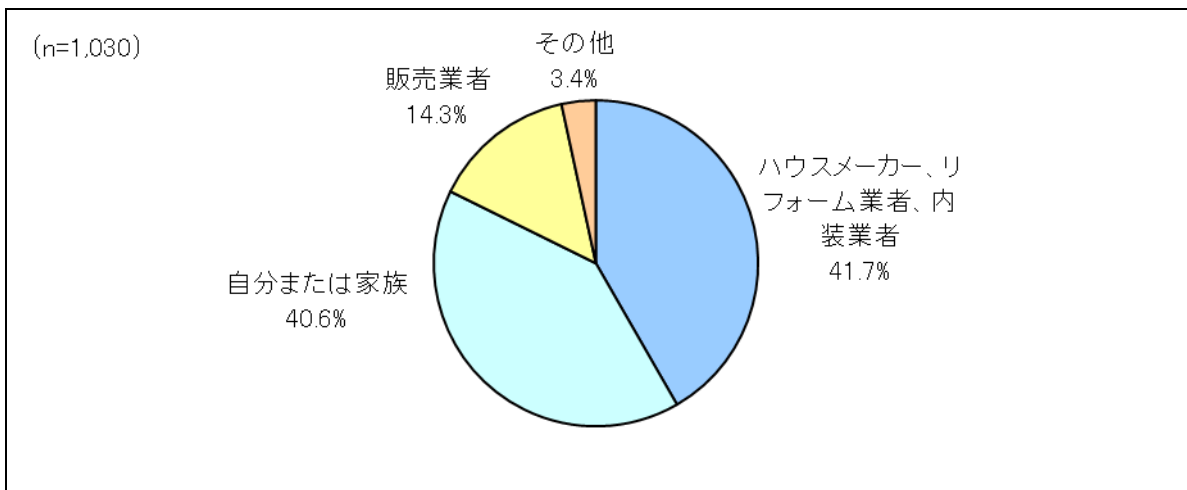


図 5 ブラインド類・スクリーン類の主な取付業者

(エ) 購入時に重視した項目（複数回答）

ブラインド類・スクリーン類を購入した際に重視した項目については、「デザイン」が77.3%と最も多く、次いで「価格」が58.3%であった。「安全性」については7.7%とあまり重視されていないことがわかる。「その他」については、「色」「サイズ」「機能（遮光性や洗えるなど）」「素材」などの記述があった。

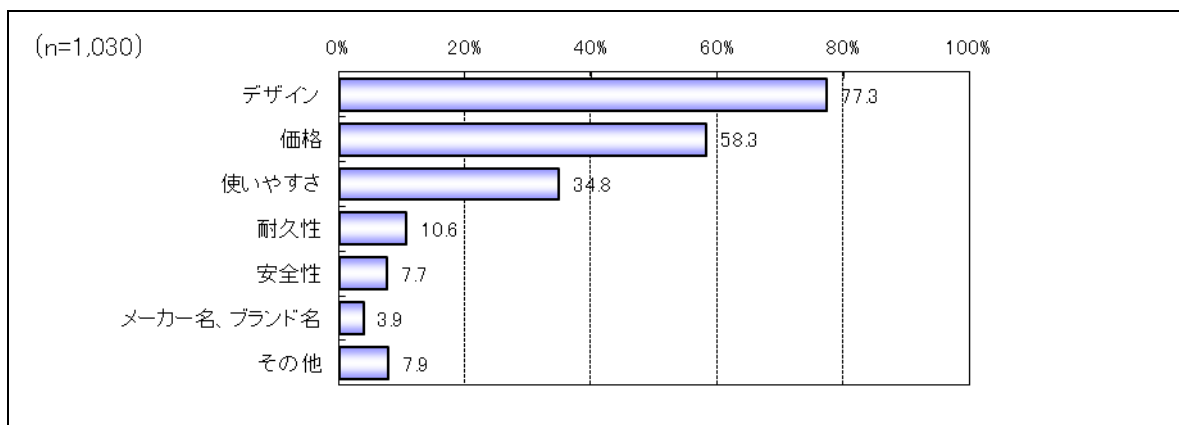


図 6 ブラインド類・スクリーン類を購入した際に重視した項目（複数回答）

イ ブラインド類・スクリーン類の安全対策について

(ア) 警告マーク（複数回答）

使用しているブラインド類・スクリーン類に、ひもが子供に巻きついたり引っかからないように警告する旨の表示があったかについては、「覚えていない」が45.4%、「表示は無かった」が35.1%であり、両者の合計は約8割を占める。「本体に表示、または表示タグがついている」が12.1%、「本体に表示、または表示タグがついていたが剥がしてしまった・はずしてしまった」が7.4%であった。

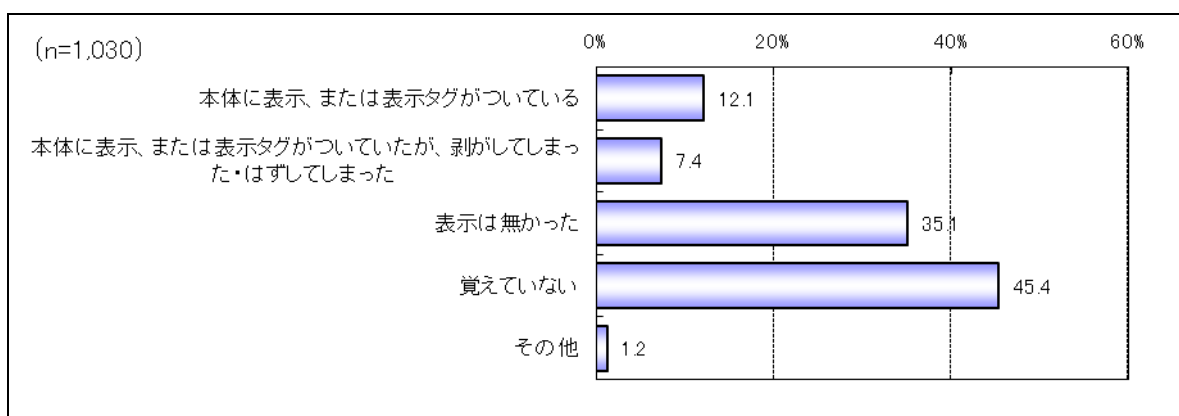


図 7 ブラインド類・スクリーン類の警告マークの状況（複数回答）

(イ) 購入時に付属していた安全器具 (複数回答)

購入時に付属していた安全器具について尋ねたところ、「荷重がかかると外れるセーフティジョイントが最初からひもに付属していた」との回答が 17.8%であった。また、いずれかの安全器具が付属していたとの回答は全体の約 4 割であった⁷。一方、全体の 6 割弱が「付属していなかった」または「覚えていない」と回答している。

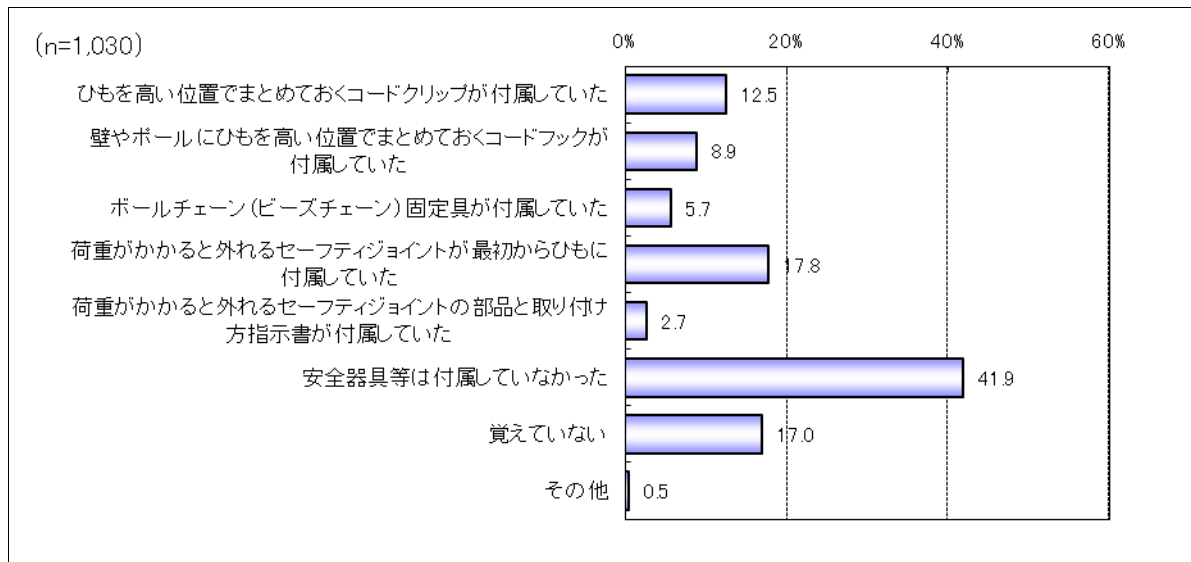


図 8 購入時に付属していた安全器具(複数回答)

⁷ 複数のブラインド等を所有し、異なる種類の安全器具が付属しているケースがあることから、各安全器具の合計より小さい数値となっている。

購入時に「コードクリップ」「コードフック」「ボールチェーン（ビーズチェーン）固定具」「荷重がかかると外れるセーフティジョイントの部品と取り付け方指示書」が付属していたと回答した方に、それぞれその使用状況について尋ねたところ、下記の結果が得られた。

チェーン固定具やセーフティジョイントは、付属しているものを購入した家庭の 7 割以上で使用されている。コードクリップやコードフックは、それぞれ約 6 割で毎回使用されている。

また、安全器具の付属品がある（あった）が使っていない理由として「面倒だから」「子供が小さく、ひもに届かないから」「子供が大きくなったので」などが挙げられている。

なお、購入時に安全器具がついていたにも関わらず、それを認識していない・覚えていない家庭もあると考えられることから、実際の使用率の判断については考慮が必要である。

表 1 付属していた安全器具の使用率

| | 付属していた (%) | (毎回)使用している (%) |
|----------------------------------|-----------------|-------------------|
| ひもを高い位置でまとめておくコードクリップ | 129 (100.0%) | 78 (60.5%) |
| 壁やポールにひもを高い位置でまとめておくコードフック | 92 (100.0%) | 52 (56.5%) |
| ボールチェーン（ビーズチェーン）固定具 | 59 (100.0%) | 46 (78.0%) |
| 荷重がかかると外れるセーフティジョイントの部品と取り付け方指示書 | 28 (100.0%) | 25 (89.3%) |

ウ ブラインド類・スクリーン類における「危害」「危険」「ヒヤリ・ハット」経験について

用語の定義

・「危害」経験とは

ひもに引っかかる・絡まる等して、ケガをした・窒息した等の経験を指します。

・「危険」経験とは

ひもに引っかかる・絡まる等したが、ケガ・窒息等はしなかった経験を指します。

・「ヒヤリ・ハット」経験とは

ひもに引っかかりそうになる・絡まりそうになる等して、ヒヤリとしたりハットとした経験を指します。

(ア) ブラインド類・スクリーン類における危害の程度

ブラインド類・スクリーン類についての子供の「危害」「危険」「ヒヤリ・ハット」の経験の有無と、その危害の程度について尋ねた結果、1,030人中157人(15.3%)が「危害」「危険」「ヒヤリ・ハット」のいずれかを経験したと回答している。

表 2 ブラインド類・スクリーン類における「危害」「危険」「ヒヤリ・ハット」経験

| | | | |
|--------------------|------------------|---------------------------------------|------|
| 危害、危険、ヒヤリ・ハットの経験あり | 首・頭部 | 危害(ケガや窒息をし、入院した) | 0件 |
| | | 危害(ケガや窒息をし、病院を受診したが、入院はしなかった) | 0件 |
| | | 危害(ケガや窒息をしたが、病院を受診しなかった) | 5件 |
| | | 危険(ひもに引っかかる・絡まる等して、ケガや窒息をしそうになった) | 24件 |
| | | ヒヤリ・ハット (ひもに引っかかりそうになった、絡まりそうになった) | 32件 |
| | | 小計 | 61件 |
| | 手足体等 | 危害(ケガや窒息をし、入院した) | 0件 |
| | | 危害(ケガや窒息をし、病院を受診したが、入院はしなかった) | 0件 |
| | | 危害(ケガや窒息をしたが、病院を受診しなかった) | 3件 |
| | | 危険(ひもに引っかかる・絡まる等して、ケガや窒息をしそうになった) | 49件 |
| | | ヒヤリ・ハット (ひもに引っかかりそうになった、絡まりそうになった) | 41件 |
| | | 小計 | 93件 |
| | 小計 | | 154件 |
| | その他・不明(覚えていないなど) | | 3件 |
| 合計 | | 157件 | |

首・頭部に関する「危害」の事例5件、「危険」の事例24件について、記述内容(抜粋)を下記に示す。

危害

- ・ブラインドの上げ下げを楽しんでいて首が引っかかったまま勢いよく上げて首をわずかに持っていかれた。回避しようと勢いよく下ろしたらブラインド本体で頭部を強打した。(1歳10か月)
- ・窓から外を眺めていて離れようとしたときにシェードのひもに絡まった。すぐに気付いた

- が、数日間首にねじれたようなひもの跡が残った。ひもは床から 10 センチ。(2 歳女兒)
- ・ブラインド付近を走った際に、ブラインドのひもに首が絡まった。5 日ほど赤黒い痣が残った。首つり状態で引っかかり宙に浮いてから後ろに倒れて後頭部を強打した。(2 歳半男児)
 - ・リビングで遊んでいて、ひもに首が引っかかり少し赤く痕が残った。ひもは床から 60 センチ。安全器具なし。(3 歳女兒)
 - ・窓枠から床に飛び降りて遊んでいた時、ロールスクリーンの金属製チェーンのループに首が入り首吊り状態になった。下に足がついたので大事には至らなかったが、首に赤い跡がついた。ひもは床から 100 センチ。(5 歳男児)

危険

- ・ハイハイをしていて間仕切り用のブラインドのひもに首が絡まった。(7 ヶ月女兒)
- ・目を離れた隙にひもで遊んでいて、身体に巻きつき取れなくなりもがいたら首に巻きついた。(9 ヶ月男児)
- ・ソファの上でチェーンで遊んでいて、よろけてチェーンの輪が首にかかった。(10 ヶ月男児)
- ・ひもで遊んでいて首に絡まっていた。(11 ヶ月)
- ・ヨチヨチ歩きでひもをひっぱり首に絡まった。(1 歳)
- ・窓の近くで遊んでいて首にひもが絡まり転倒した。近くで見ていたので助かった。(1 歳半女兒)
- ・リビングのカーテンで遊んでいて足を踏み外し、ひもで首をつりそうになった。(1 歳 8 ヶ月女兒)
- ・窓の近くを走っていてひもが首に絡まり、そのまま走り出そうとして首が絞まりそうになった。(2 歳女兒)
- ・ブラインドのひもで遊んでいて足を滑らせひもが首にかかった。ひもは床から 30 センチ以下だったので大事には至らなかった。(2 歳男児)
- ・ソファの上でボールチェーンをいじっていて首に絡まった。(2 歳)
- ・ひもを触っていて首に引っかかった状態でひもを引いてしまい、首が絞まりそうになった。(2~3 歳男児)
- ・出窓のブラインドのひもが首に絡まった。近くにいたので大事には至らなかった。(3 歳男児)
- ・腰高窓のブラインドのひもがちょうど首の高さにあり、ふざけていたら首に絡まり慌てた。(3 歳)
- ・ブラインド近くで遊んでいて転倒し、ひもが首に絡まった。ひもの一番下の部分だったので窒息するようなことはなかった。(3 歳)
- ・チェーンで遊んでいて首や肩に絡まった。(3 歳男児)
- ・寝室で、首に絡めたまま寝返りをした。(3 歳女兒)
- ・近くで遊んでいて立ち上がり動いたときに、ひもに引っかかって転び、ひもが首にかかったままになった。(4 歳男児)
- ・窓の外に勢い良く飛び出した拍子にすだれのひもが巻きついて取れなくなった。(4 歳女兒)
- ・寝ている最中に寝相が悪く、掃き出し窓のロールスクリーンのひもが首や手に絡みついて苦しそうだった。(5 歳女兒)
- ・ブラインドのひもが引っ張った反動で首に巻きついてパニックになり足を滑らせ、首をつったようになった。安全装置が機能した。(年齢不明)
- ・首に絡まった。(年齢不明)
- ・上から垂れ下がったひもに首が絡まった。(年齢不明)
- ・ブラインドのひもで遊んでいてバランスを崩したところに首が引っかかった。(男児、年齢不明)

なお、「危害」「危険」「ヒヤリ・ハット」の経験のある154件（経験のある157件のうち、「その他・不明（覚えていないなど）」3件を除いたもの）について、当事者（子供）の年齢は以下のとおりであり、3歳以下の事故が多いことがわかる。さらに、0歳児では、首・頭部の事故が多く、4歳以上になると少なくなっている。

表3 ブラインド類・スクリーン類における
「危害」「危険」「ヒヤリ・ハット」が起きたときの当事者（子供）の年齢

| | 件数 | 首・頭部 | 手足体等 |
|------|------|----------------|----------------|
| 0歳 | 9件 | 6件 (66.7%) | 3件 (33.3%) |
| 1歳 | 33件 | 15件 (45.5%) | 18件 (54.5%) |
| 2歳 | 35件 | 16件 (45.7%) | 19件 (54.3%) |
| 3歳 | 23件 | 11件 (47.8%) | 12件 (52.2%) |
| 4歳 | 10件 | 2件 (20.0%) | 8件 (80.0%) |
| 5歳 | 4件 | 3件 (75.0%) | 1件 (25.0%) |
| 6歳 | 2件 | 0件 (0.0%) | 2件 (100.0%) |
| 年齢不明 | 38件 | 8件 (21.1%) | 30件 (78.9%) |
| 合計 | 154件 | 61件 (39.6%) | 93件 (60.4%) |

また、ブラインド類・スクリーン類のひもの床からの高さに関し、記載のあった47件についてまとめたのが表4である。「0センチ」と「100センチ以上」のものが多く、「100センチ以上」の事例では、12件中8件が、ソファやベッド等にいた状態で事故が起きている。

表4 ブラインド類・スクリーン類のひもの床からの高さ

| | 件数 | 首・頭部 | 手足体等 |
|----------|------|----------------|----------------|
| 0cm | 11件 | 2件 (10.0%) | 9件 (90.0%) |
| ~20cm未満 | 7件 | 3件 (42.9%) | 4件 (57.1%) |
| ~40cm未満 | 3件 | 2件 (66.7%) | 1件 (33.3%) |
| ~60cm未満 | 6件 | 4件 (66.7%) | 2件 (33.3%) |
| ~80cm未満 | 4件 | 2件 (50.0%) | 2件 (50.0%) |
| ~100cm未満 | 4件 | 3件 (75.0%) | 1件 (25.0%) |
| 100cm以上 | 12件 | 6件 (50.0%) | 6件 (50.0%) |
| 不明 | 107件 | 39件 (36.4%) | 68件 (63.6%) |
| 合計 | 154件 | 61件 (39.6%) | 93件 (60.4%) |

また、「危害」「危険」「ヒヤリ・ハット」が起きたきっかけについてみると、「首・頭部」の事例では、「ひもで遊んでいた(いじっていた)」ケースが多く、「手足体等」の事例では、「近くで遊んでいた(近くを通った)」というケースが多い傾向にあった。

表 5 ブラインド類・スクリーン類における「危害」「危険」「ヒヤリ・ハット」が起きたきっかけ

| 危害等の部位 | ひもで遊んでいた | 近くで遊んでいた | その他 | 計 |
|--------|----------------|----------------|--------------|-----------------|
| 首・頭部 | 36件 (59.0%) | 22件 (36.1%) | 3件 (4.9%) | 61件 (100.0%) |
| 手足体等 | 38件 (39.6%) | 46件 (49.5%) | 9件 (9.7%) | 93件 (100.0%) |

安全器具については、セーフティジョイントが機能して助かった事例が 4 件あった。一方、コードクリップやフックが付属しているが、事故の際には使用していなかったと記述している事例が 10 件あり、そのうち「いつも使用していなかった」ものが 3 件あった。

(イ) 「危害」「危険」「ヒヤリ・ハット」経験のあったブラインド類・スクリーン類のタイプ(引っかかった場所)

「危害」「危険」「ヒヤリ・ハット」の経験があったブラインド類・スクリーン類のタイプ及び引っかかった場所については、「ヨコ型ブラインドのひも・チェーン」が 36.9%と最も多く、次いで「ロールスクリーンのひも・チェーン」22.9%、「ローマンシェード」14.0%となっている。なお、複数の経験がある場合は、危害程度が最も高い事例について聞いている。

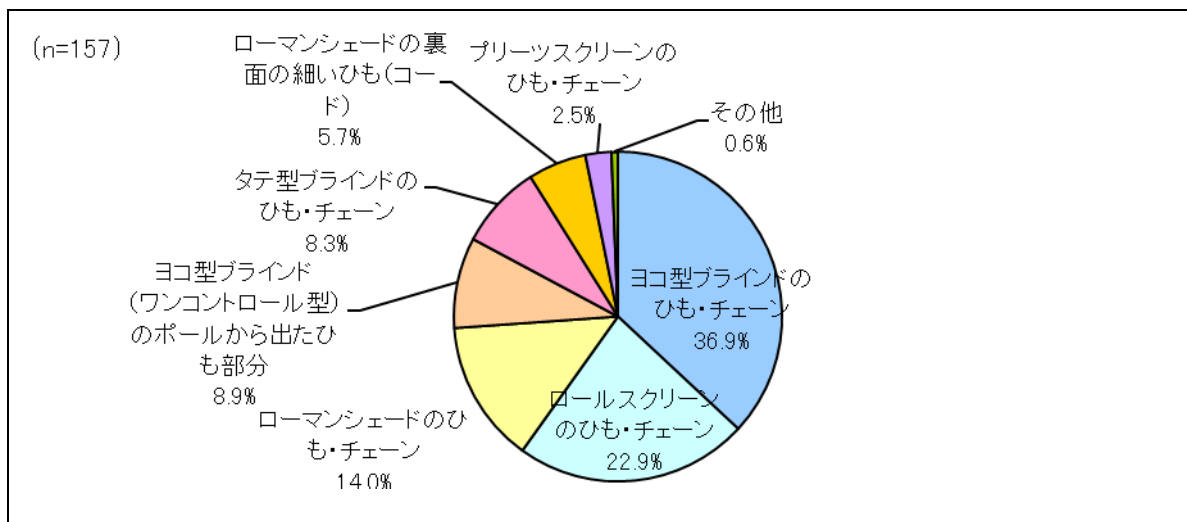


図 9 「危害」「危険」「ヒヤリ・ハット」経験のあったブラインド類・スクリーン類のタイプ

「ブラインド類・スクリーン類のひも・チェーン」とする回答者は 133 件(84.7%)。うち、60.9%が「ひも」、39.1%が「ボールチェーン(ビーズチェーン)」であった。

危険性が懸念されている箇所として、ひも・チェーンのループ部分のほか、「ヨコ型ブラインドのポールから出たひも部分」「ローマンシェードの裏面の細かいひも」「イコライザーの上部」があげられる。イコライザーとは、細かいひもを数本束ねている部品を指す(図 10)が、図の部分に引っかかる可能性が指摘されている。

これらについての事例は下記のとおりであった。

「ヨコ型ブラインドのポールから出たひも」の回答 14 件のうち、参考となる事例は下記のとおりである。

息子がブラインドのひもで遊んでいて、バランスを崩したところに首が引っかかった。
3 歳の子供がお風呂の浴槽の腰掛に立って遊んでいたときにひもが首に引っかかっていたり、自分で引っかけて遊んでしまう。

「ローマンシェードの裏面の細いひも」の回答 9 件のうち、参考となる事例は下記のとおりである。

息子が 3 歳のとき、カーテンの近くで遊んでおり、ローマンシェードの部分で隠れていて、そのままひもが引っかかり、転んでしまった。
子供がスクリーンのそばを通った時に衣類や手にひもが引っかかっていたことがあったが、すぐに気付いたので被害はなく、取り外してあげた。
子供が 2 歳頃、リビングのソファにのぼってちょうど手の届く高さにあるシェードのカーテンをめぐって外を見ようとしたところ、ひもに腕が絡まった。そのまま転倒したりして首に巻きついたらとても危険だと感じた。そのときは絡まただけでケガはしていない。
子供が 1 歳のとき、ヨチヨチ歩きでひもを引っ張り首に絡まった。

「イコライザーの上部」の事例は次の 1 件であった。

息子が 2 歳なったばかりの時に走っていて転んだ時にブラインドのひもに首が引っかかりそうになった。ブラインドは通常タイプのもので、ひもはナイロン製です。価格は 2 万円でした。

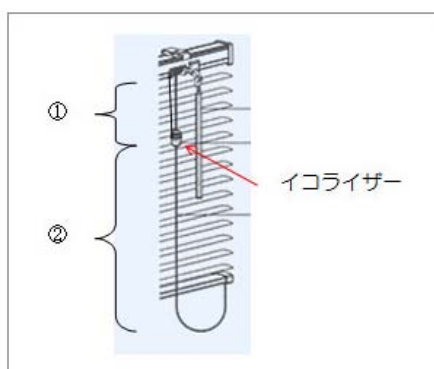


図 10 イコライザー

(ウ) 「危害」「危険」「ヒヤリ・ハット」が発生した原因(複数回答)

「危害」「危険」「ヒヤリ・ハット」の経験について、その原因を何と考えているかを尋ねたところ、「保護者(親等)の不注意だった」が65.6%と多く、次いで「使用者(子供等)の不注意だった」35.7%、「商品の使い方・設置場所や管理に問題があった」17.8%となっている。「商品に何らかの問題(構造・デザイン・安全器具等)があった」とする回答は11.5%であった。

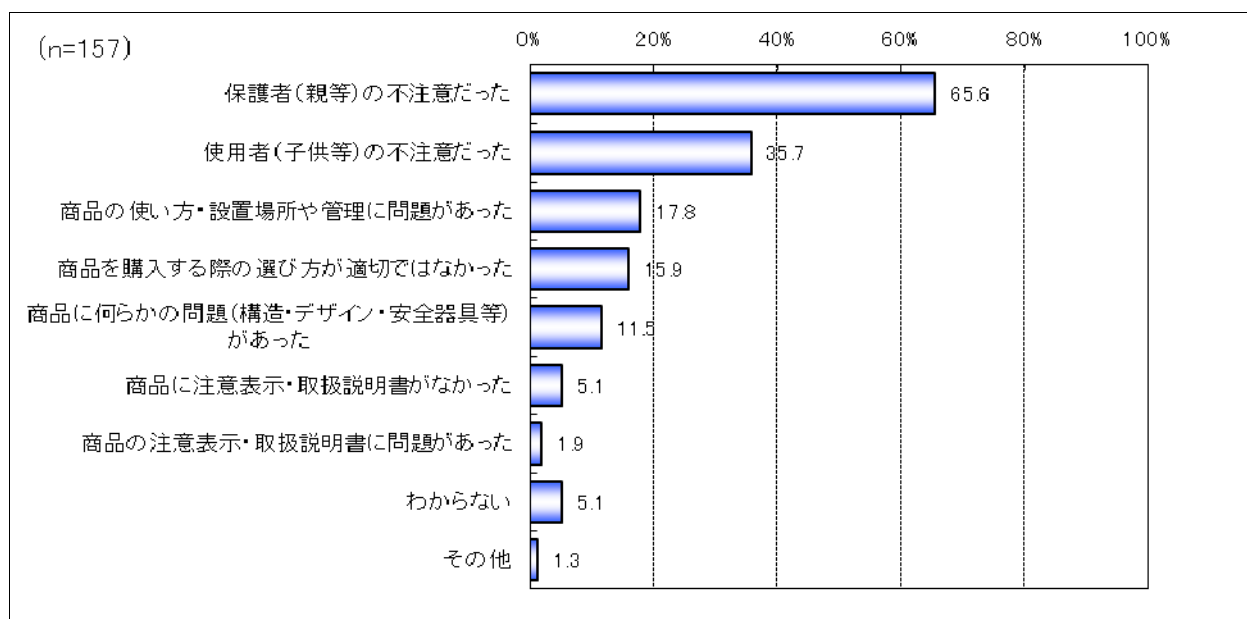


図 11 ブラインド類・スクリーン類における「危害」「危険」「ヒヤリ・ハット」が発生した原因(複数回答)

(エ) 「危害」「危険」「ヒヤリ・ハット」発生時の苦情の申し出について(複数回答)

「危害」「危険」「ヒヤリ・ハット」経験をしたときに、どこへ苦情を申し出たかを尋ねたところ、94.9%が「申し出なかった」と回答している。申し出たという回答者の中では、「メーカー」の2.5%が最も多い。

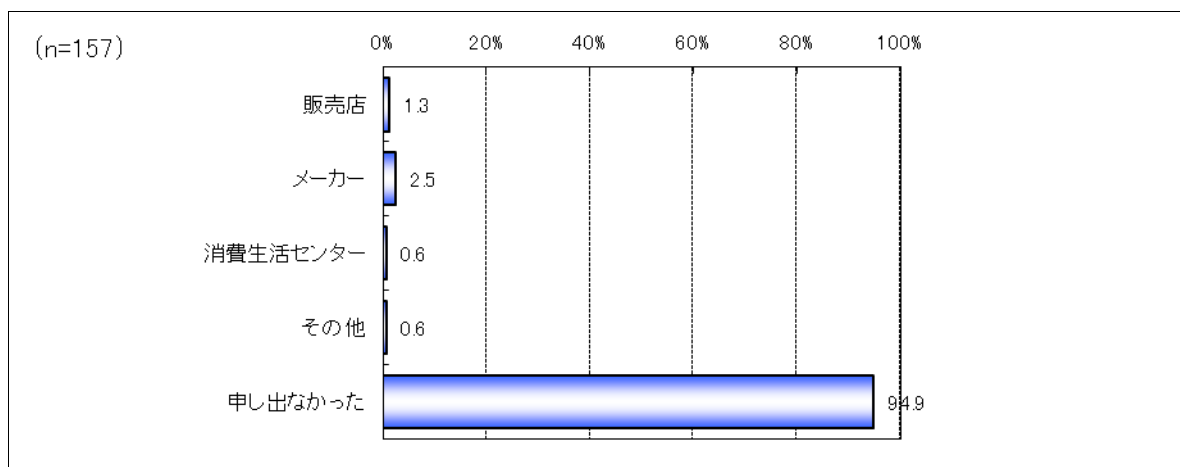


図 12 ブラインド類・スクリーン類における「危害」「危険」「ヒヤリ・ハット」発生時の苦情の申し出について(複数回答)

(オ) 「危害」「危険」「ヒヤリ・ハット」の経験以前に危険を感じたことがあったか

「危害」「危険」「ヒヤリ・ハット」を実際に経験する以前に、ブラインド類・スクリーン類のひも部分について危険を感じたことがあったか尋ねた結果、半数以上が「危険を感じていなかった」と回答している。

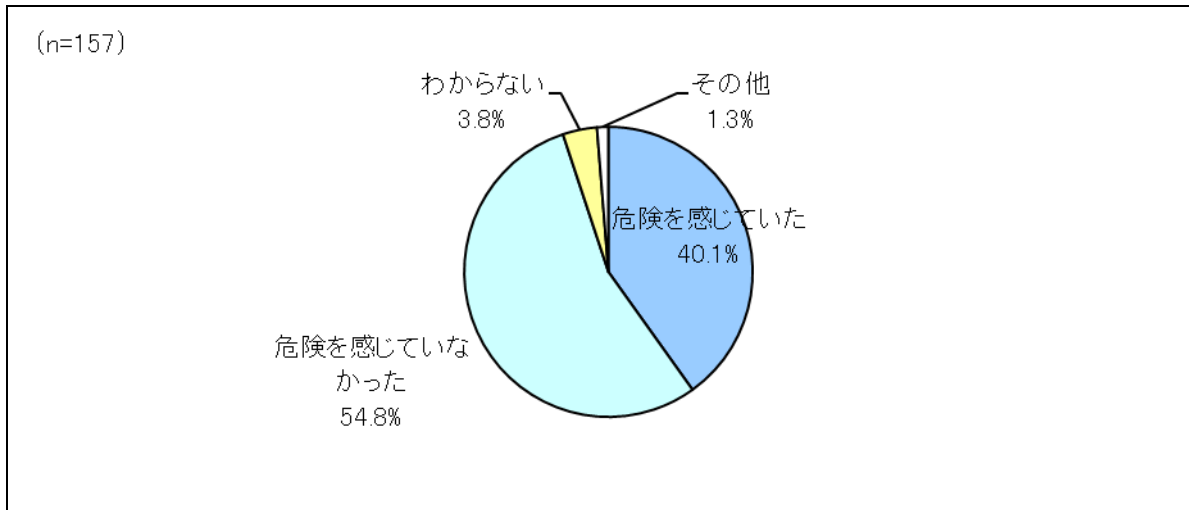


図 13 ブラインド類・スクリーン類において
「危害」「危険」「ヒヤリ・ハット」の経験以前に危険を感じたことがあったか

エ カーテンの留めひも（タッセル）について

(ア) カーテンの留めひも（タッセル）の使用の有無と種類（複数回答）

カーテンの留めひも(タッセル)については、「共布の留めひも(タッセル)」の使用が77.9%と圧倒的に多く、「細いひも状の留めひも(タッセル)」は4.0%と少ない。

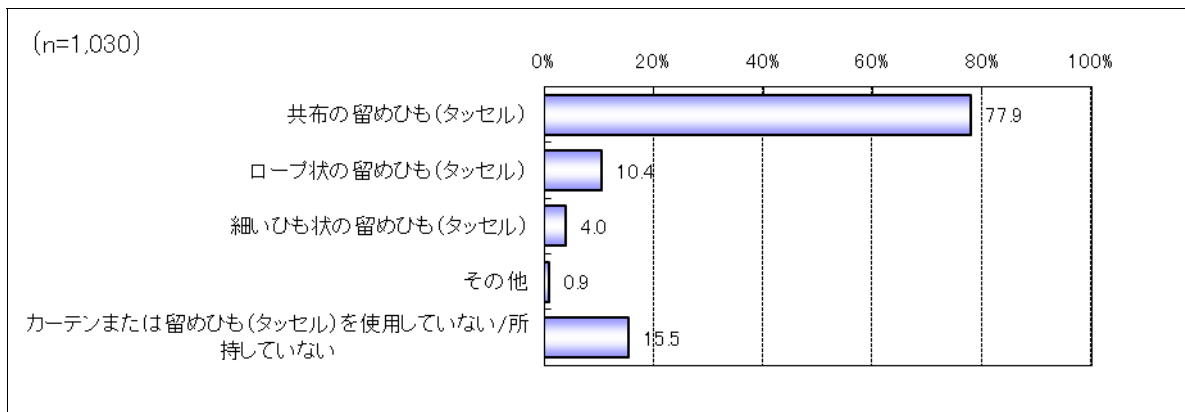


図 14 カーテンの留めひも(タッセル)の所有の有無と種類(複数回答)

(イ) カーテンを閉じているときの留めひも(タッセル)の状態

カーテンを閉じているとき、留めひも(タッセル)をどのようにしているかについては、「両端を留め具にかけている」が53.7%、「片方を留め具にかけず、垂らした状態にしている」が42.0%であった。

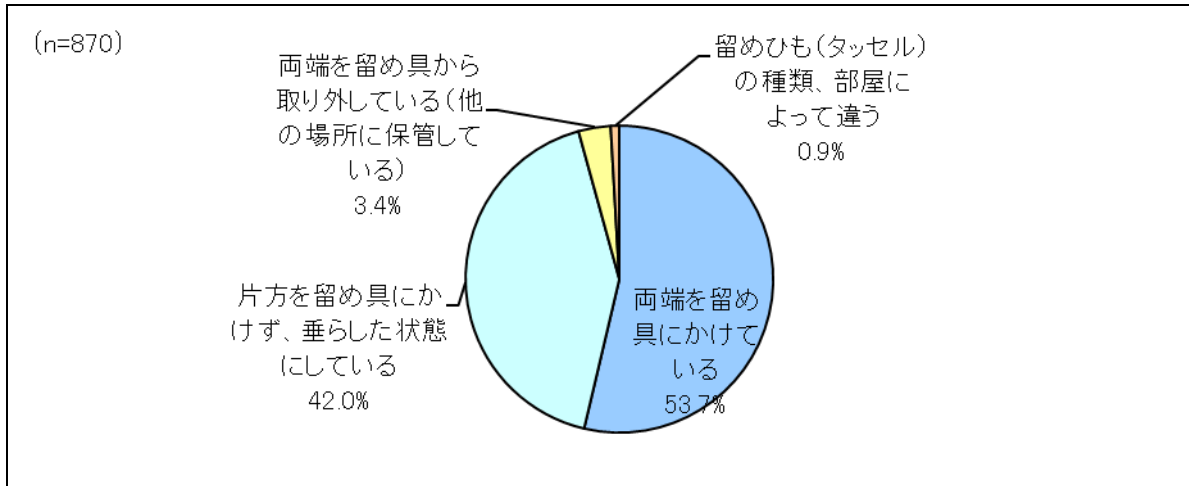


図 15 カーテンを閉じているときの留めひも(タッセル)の状態

オ カーテンの留めひも（タッセル）における「危害」「危険」「ヒヤリ・ハット」経験について

（ア）カーテンの留めひも（タッセル）における危害の程度

カーテンの留めひも（タッセル）についての「危害」「危険」「ヒヤリ・ハット」の経験の有無と、その危害の程度について尋ねた結果、カーテンの留めひも（タッセル）を所有する 870 人中 21 人（2.4%）が「危害」「危険」「ヒヤリ・ハット」のいずれかを経験したと回答している。

表 6 カーテンの留めひも(タッセル)における「危害」「危険」「ヒヤリ・ハット」経験

| | | | |
|--------------------|------|---------------------------------------|------|
| 危害、危険、ヒヤリ・ハットの経験あり | 首・頭部 | 危害（ケガや窒息をし、入院した） | 0 件 |
| | | 危害(ケガや窒息をし、病院を受診したが、入院はしなかった) | 0 件 |
| | | 危害（ケガや窒息をしたが、病院を受診しなかった） | 0 件 |
| | | 危険（ひもに引っかかる・絡まる等して、ケガや窒息をしそうになった） | 2 件 |
| | | ヒヤリ・ハット （ひもに引っかかりそうになった、絡まりそうになった） | 4 件 |
| | | 小 計 | 6 件 |
| | 手足体等 | 危害（ケガや窒息をし、入院した） | 0 件 |
| | | 危害(ケガや窒息をし、病院を受診したが、入院はしなかった) | 1 件 |
| | | 危害（ケガや窒息をしたが、病院を受診しなかった） | 2 件 |
| | | 危険（ひもに引っかかる・絡まる等して、ケガや窒息をしそうになった） | 5 件 |
| | | ヒヤリ・ハット （ひもに引っかかりそうになった、絡まりそうになった） | 5 件 |
| | | 小 計 | 13 件 |
| | 小 計 | | 19 件 |
| その他・不明（覚えていないなど） | | 2 件 | |
| 合 計 | | 21 件 | |

首・頭部の 危険の事例 2 件について記述内容（抜粋）を下記に示す。

危険

- ・カーテンにくるまって遊んでいるときに首に引っかかった。共布の留めひも。（1 歳女兒）
- ・タッセルに首が引っかかった。共布の留めひも。（年齢不明）

手足体等の 危害の事例 1 件は下記のとおりである。

危害

- ・窓際でハシャいでいて左手の小指をタッセルに引っかけ爪を剥がし病院で治療した。共布の留めひも。（2 歳 3 ヶ月）

なお、今回の検討対象の危険には該当しないが、タッセルが留め具から外れたことによる危険経験も 2 件あった。（「タッセルを引っ張りそれが外れて体重のまま床に頭から落ちた。」
「現在息子が 2 歳でカーテンのひもで遊んでいたところ、ひもがとれて、窓にぶつかった。」）

「危害」「危険」「ヒヤリ・ハット」の経験のある 19 件(経験のある 21 件のうち、「その他・不明(覚えていないなど)」2 件を除いたもの)について、当事者(子供)の年齢は以下のとおりである。

表 7 カーテンの留めひも(タッセル)における
「危害」「危険」「ヒヤリ・ハット」が起きたときの当事者(子供)の年齢

| | 件数 | 首・頭部 | 手足体等 |
|------|------|-----------------|-----------------|
| 0 歳 | 0 件 | 0 件 | 0 件 |
| 1 歳 | 1 件 | 1 件 (100.0%) | 0 件 (0.0%) |
| 2 歳 | 3 件 | 0 件 (0.0%) | 3 件 (100.0%) |
| 3 歳 | 2 件 | 1 件 (50.0%) | 1 件 (50.0%) |
| 4 歳 | 0 件 | 0 件 (0.0%) | 0 件 (0.0%) |
| 5 歳 | 1 件 | 1 件 (100.0%) | 0 件 (0.0%) |
| 6 歳 | 0 件 | 0 件 (0.0%) | 0 件 (0.0%) |
| 年齢不明 | 12 件 | 3 件 (25.0%) | 9 件 (75.0%) |
| 合 計 | 19 件 | 6 件 (31.6%) | 13 件 (68.4%) |

(イ)「危害」「危険」「ヒヤリ・ハット」の原因となったカーテンの留めひも(タッセル)のタイプ

「危害」「危険」「ヒヤリ・ハット」の経験があったタッセルのタイプについては、「共布のタッセル」が 57.1%、「ロープ状のタッセル」が 23.8%、「細いひも状のタッセル」が 19.0% となっている(ただし、前述(図 14)のとおり、共布のタッセルの使用者が多いことを鑑みると、共布のタッセルによる危害の発生頻度が高いということではない)。

なお、複数の経験がある場合は、危害程度が最も高い事例について聞いている。

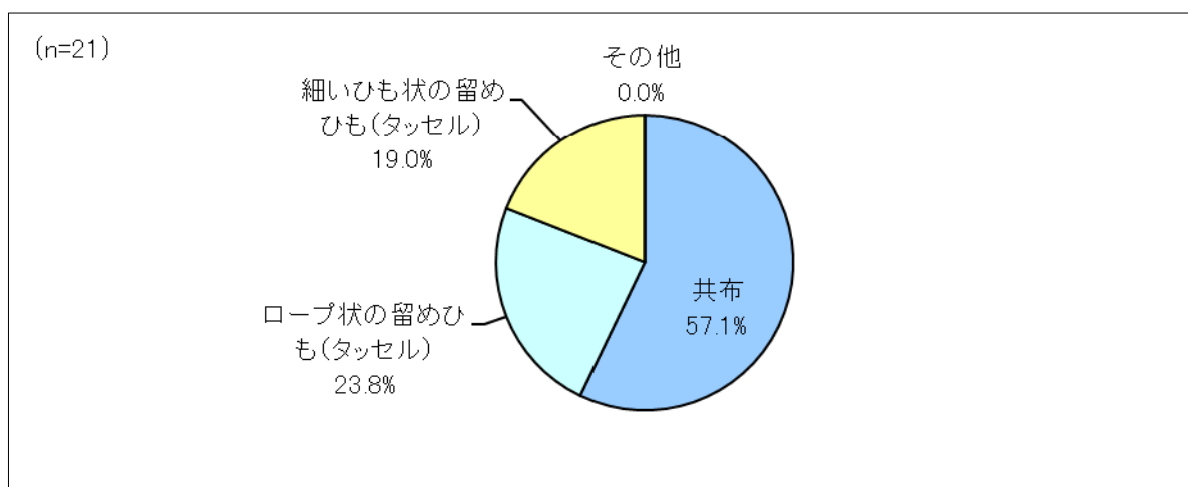


図 16 「危害」「危険」「ヒヤリ・ハット」の原因となったカーテンの留めひも(タッセル)のタイプ

(ウ)「危害」「危険」「ヒヤリ・ハット」が発生した原因(複数回答)

「危害」「危険」「ヒヤリ・ハット」の経験について、その原因が何であるか尋ねたところ、「保護者(親等)の不注意だった」が47.6%と多く、次いで「使用者(子供等)の不注意だった」の33.3%であった。「商品に何らかの問題(構造・デザイン・安全器具等)があった」との回答は14.3%であった。

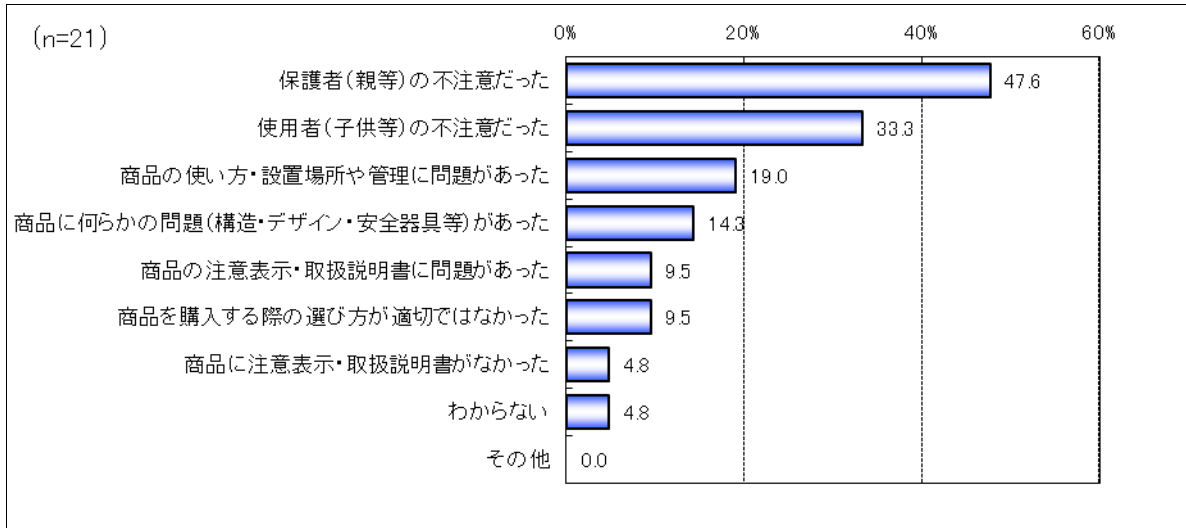


図 17 カーテンの留めひも(タッセル)における「危害」「危険」「ヒヤリ・ハット」発生の原因(複数回答)

(エ)「危害」「危険」「ヒヤリ・ハット」発生時の苦情の申し出について(複数回答)

「危害」「危険」「ヒヤリ・ハット」経験をしたときに、どこへ苦情を申し出たかを尋ねたところ、66.7%が「申し出なかった」と回答している。申し出たという回答者の中では、「メーカー」の19.0%が最も多い。

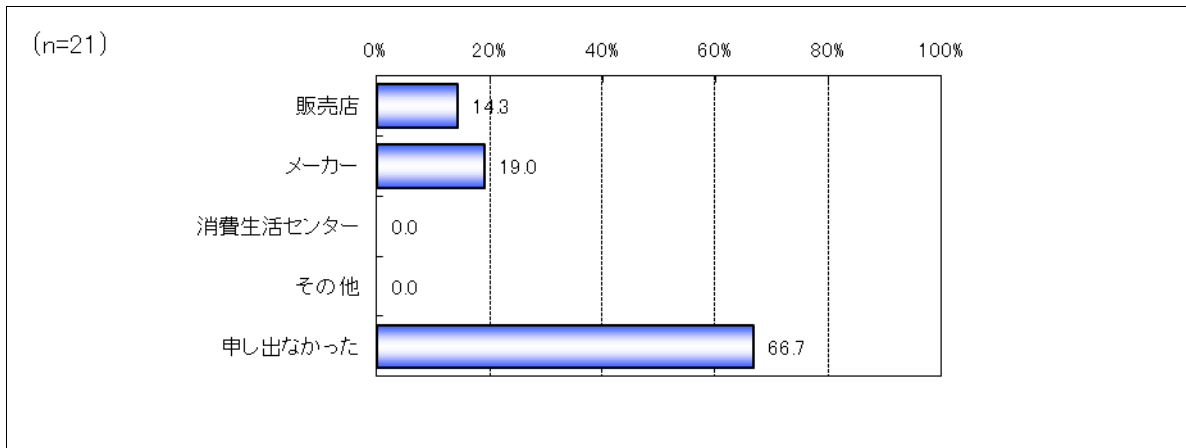


図 18 カーテンの留めひも(タッセル)における「危害」「危険」「ヒヤリ・ハット」発生時の苦情の申し出について(複数回答)

(オ) 「危害」「危険」「ヒヤリ・ハット」の経験以前に危険を感じたことがあったか

「危害」「危険」「ヒヤリ・ハット」を実際に経験する以前に、カーテンの留めひも(タッセル)について危険を感じたことがあったかを尋ねた結果、81.0%が「危険を感じていなかった」と回答している。

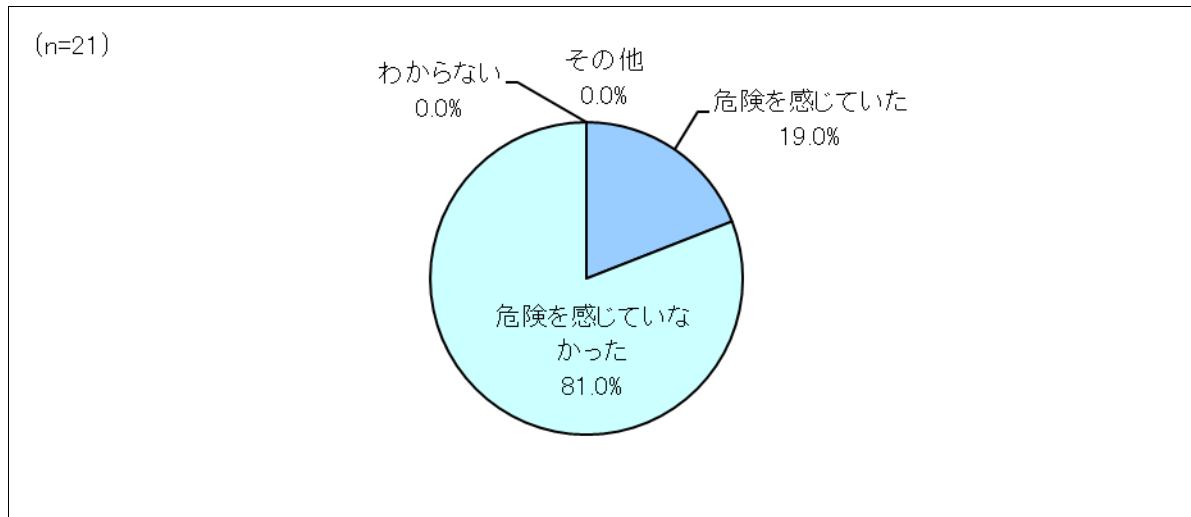


図 19 カーテンの留めひも(タッセル)において
「危害」「危険」「ヒヤリ・ハット」の経験以前に危険を感じたことがあったか

カ ブラインド類・スクリーン類のひも、カーテンの留めひも(タッセル)の安全性について

(ア) 子供への安全性について、感じていることや考えていること(不安や疑問)

安全の確保について

ブラインド類・スクリーン類は「手の届く場所に設置していない」「安全装置を使用しているなど既に配慮をしている」という回答が多かった。

- ・セーフティジョイントがあるが、危ないのでピンを壁に差し、そこにひもを引っかけて子供の手が届かないようにしている。(30代女性)
- ・子供は何でも興味を持ち、触りたがるので、危ないものは事前に手の届かないようにしておくことが必要であると考えています。(30代女性)

危険性の認知について

一方、最近の報道や今回のアンケートで初めて危険性を認知した人も多い。

- ・今までブラインドのひもが子どもにとって危険だという認識がなかったのですが、最近ニュースで窒息の危険があることを知りました。子どもの手が届かない所にひもをかけたおかなければいけないと思いました。(30代女性)
- ・ブラインドのひもは短く束ねるなどして危険の回避はしていたが、カーテンのタッセルが危ないなど想像もしていなかった。(30代女性)

安全器具・安全対策について

クリップなどの安全器具は、安全のために仕方ないが面倒で使いにくいとの意見もあり、使いにくくならない安全器具が望まれている。

- ・首に引っかかるような経験は今のところないが、引っ張って遊んでしまうのでどうにかならないかとは思っている。ただ、毎回留め具で留めるのは面倒なのでどうしたらいいのかわからない(30代女性)
- ・子供の手の届かないところまで纏めて束ねているが、いざ使うときに自分が使いづらい。(30代女性)
- ・背が届かないうちは良いが、いつの間にか届くようになって遊んでいたりすることがあるので気をつけなければと思う。安全器具などを装備するのは良いことだが、同時に使いやすさが失われないようにするべきだ(面倒くさくて使わなければ意味がない)(40代女性)

不安や心配について

また、ブラインド類・スクリーン類の使用について、「不安を感じている」「安全対策について心配している」という回答もある。

- ・購入した時には子供がいなかったから意識していなかった。子供が予想外の行動をとるので不安(20代女性)
- ・まだ子供が小さいのでひもに届くことはないが、今後行動範囲や興味が広がったときの安全対策を心配している。いま使っているものは古いタイプのもので、後付けの安全対策装置があれば購入したい。(30代女性)
- ・ブラインドとひもを最近引っ張ったりするようになり、ニュースで子供の窒息死があったのを知って、どのように対応したらいいのか教えて欲しい。(20代女性)

使用者側の注意意識について

一方、製品側の安全対策に頼らず、「親が注意すべき」「触らないように言って聞かせる」という意見もみられた。

- ・最近、ニュースで事故の例が報道されて初めてその危険性について認識した。確かに言われてみればそうかもしれないが、果たして法律などで基準を設定すべき話なのかどうかは疑問に思う。日常で、親が気を付けていればよだけの話なのではないか。(30代男性)
- ・危険性や実際の事故事例について保護者や使用者が認識しており、日々注意しているべき。子供に対する危機管理ができていない家庭ならめったに事故にはならないと思う。(30代女性)
- ・うちでは触らないように言っているので、特に何の不安もありません。(40代女性)
- ・子供には、ロールスクリーンには触らないように、近寄らないように言い聞かせている。(30代女性)

その他

その他、ブラインド本体の落下やブラインドの羽根でのケガを心配する意見もみられた。

- ・引っかかるだけでなく、いたずらで力任せに上げ下ろしすることで本体が外れて落下するなどの不具合が生じてしまうことに懸念を感じている(40代男性)
- ・触って、手が切れないか心配でした。(30代女性)

(イ) 子供への安全性について、事業者や行政への要望

安全性の高い商品について

安全のための商品の改善を望む人は回答者の中で、約4分の1程度であった。特に、その中では、何らかの安全器具を設置してもらいたいという人、ひもなどの設置の高さを考慮してもらいたい人が2割程度であった。その他にも、ひもを短くしてもらいたい、または、輪になっているひもの形状を改善してもらいたいといったコメント、さらに、やわらかいまたは伸縮性のある素材への改善、太さの改善を望むコメントもみられた。

- ・ブラインドは子供の手が届く位置にある場合、危険だと思うので、全ての商品に、安全器具をつけるべきだと思う。(30代 女性)
- ・一定の荷重がかかれば安全装置が働くようにしてほしい(40代 男性)
- ・子供は大人のやっている所をコソソリみているので、子供の手が届きそうな場所のひもをかえてほしい。(40代 女性)
- ・子供の怪我防止の為に子供がいじっても簡単に操作が出来ない作りだと助かります。ひもを常に子供の背丈より上になる所で調整、常時保管できると尚有難いです。向きを変える棒も危ない時があります。お手頃価格でひもがいらぬ電動タイプがあることが一番良いのですが・・・。(40代 女性)
- ・必要以上に長いものを作らなければ、事故は起きにくいと思う。(30代女性)
- ・首がかからないように長さ調節できたらいいと思います。(30代女性)
- ・ゴムのような伸びるものが安全だと思う(40代 男性)
- ・ロールスクリーンのひもは、輪になっている点で、子供の首に引っかかる恐れが出てくると思います。シャッターのように、スクリーンの中央からひも状にたらずタイプにしていくほうがより安全であると感じます。(40代女性)

注意喚起・説明について

また、注意喚起・説明を望む回答については、全体の1割強みられた。そもそもこういう事故があることを認識していなかったということで、まずは、ニュースやチラシ等での啓発、注意喚起が必要という声が多い。また、そのほかには、製品への目立つ注意表示を望むコメント、購入時/入居時に説明がほしいといったコメントがあった。

- ・実際に起こった事象を広報してくれるだけでも注意喚起になるので、引き続き情報発信をしてほしい。(30代女性)
- ・メーカーのサイトなどを閲覧した際はわかりやすく表記してほしい。(30代女性)
- ・購入者が危険性を感じやすい表記を目立つようにつけておいてほしい。(30代男性)
- ・目立つ箇所に注意書きを記載して欲しい。説明書等ではなく、商品に大き目のタグのようなもので、記載して欲しい。使用時に取り外ししたくなるような大きさなら、目に留まりやすいため。(30代女性)
- ・購入時にはその様な事故が起きるとは考えていなかった。販売の段階で一言説明してくれると、購入や取り付けも慎重に行ったと思う。(30代女性)
- ・ブラインドのひも類が危険を及ぼす可能性があることを入居の際に説明してほしい(30代 女性)

安全対策の義務化や規格化について

さらに、安全管理ということで、行政に安全対策の義務化、安全器具などをつけた製品の規格の統一といったことを望む意見も散見された。

- ・ブラインドのひもが切れる安全装置は良いと思った。全てのブラインドのひもに採用するよう、行政からも働きかけてほしい(40代 男性)
- ・新たに販売されるものには安全対策を義務づけてほしい。(40代 女性)
- ・安全基準を設けて製品を統一してもらいたい(40代 男性)

その他

一方で、消費者自らも注意すべきといった意見もみられた。また、ブラインド、カーテンといったものは、安全を意識するあまり、デザイン的なものが損なわれることを気にするコメントもあった。

- ・特にないです。各自注意するしかないと思います。いくら業者さんが対策を行ったとしても子供は何をするかわからないので。(30代 女性)

・特になし。あったらいいなはあるけど、義務化したりするとデザイン性が崩れるし、必要ない人も多いので。(30代 男性)

